

## 1. 評価結果概要表

作成日 2008年7月25日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0870101706
法人名	有限会社 ドゥ・ライフ
事業所名	グループホーム ゆう
所在地 (電話番号)	茨城県水戸市元石川町2523番地 (電話)029-247-3177

評価機関名	特定非営利活動法人 認知症ケア研究所		
所在地	茨城県取手市井野台4-9-3 D101		
訪問調査日	平成20年5月13日	評価確定日	平成20年9月30日

## 【情報提供票より】(平成 20年 4月 1日事業所記入)

## (1)組織概要

開設年月日	平成 15 年 9 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤 12人, 非常勤 3人, 常勤換算	人

## (2)建物概要

建物形態	併設/ <del>単独</del>	<del>新築</del> /改築
建物構造	木造	
	1階建ての	階 ~ 1階部分

## (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金				
保証金の有無 (入居一時金含む)	(有) 100,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	無し	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,000 円			

## (4)利用者の概要(3月 1日現在)

利用者人数	18 名	男性	9 名	女性	9 名
要介護1	5 名	要介護2	4 名		
要介護3	7 名	要介護4	0 名		
要介護5	1 名	要支援2	1 名		
年齢	平均 79.4 歳	最低 62 歳	最高 94 歳		

## (5)協力医療機関

協力医療機関名	高橋外科医院
---------	--------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

少し市街地から離れ、緑に囲まれて閑静な環境にホームは設置されている。ホーム内の天井は高く、かなり開放的な印象を受ける。ガラス張りになっている箇所も少なくなく、開かれた空間の中で気持ちよく過ごせる生活環境となっている。敷地内には畑があり、野菜作りが楽しめ、また、犬を飼っているため、いつでもふれあうことができる。野菜作りには、利用者のみならずご家族や近隣の方々の協力もあり、生活の潤いや生きがいにもつながっている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価結果を踏まえて、どのような改善を行ったか、どのような取り組みに着手したのかがいささか明確でなかった。検討はなるだけ具体的なものとし、記録されることを期待したい。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員皆で事前評価の作成を行い、最終的に管理者がまとめた。ミーティングの機会などを通じて、評価項目について意見交換を行い、意識統一を図っている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は隔月に実施されている。地域住民や行政職員の方々など、多くの関係者が運営推進委員として出席している。会議では、意見交換を重ねながら、ホームに対する関係者、地域住民の理解を求めつつ、ホームが提供するケアの質の向上に努めている。行政機関との連携は、運営推進会議が中心となっているが、今後は、それ以外の機会における交流と連携、情報交換を活発化していく予定となっている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	月単位で、利用者の日々の様子を家族に報告している。報告は、直接口頭で伝えることもあれば、必要に応じて電話や手紙(職員が作成)を用いている。利用者の金銭管理についても同様である。また、年4回、広報誌を発行し、ホームでの利用者の様子を家族に報告している。ホーム内に意見箱を設置し、家族等からの意見や要望を受け取る仕組みを整備している。但し、投書例はない。それ以外では、電話や直接口頭による意見を傾聴して対応している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会への参加を希望しているが、加入困難な状況にある。しかしながら、「そばうち」などの機会を通じて、実質的な地域交流が図られている。また、近隣の方から野菜の差し入れが入るなど、地域住民とのふれあいもみられる。今後は、防犯パトロール的な活動などによって、地域交流と地域貢献を図っていく予定がある。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	すでに整理されているいくつかの理念をベースに、職員皆で意見を出し合って地域密着型サービスを強調する理念を構築した。家族等には、たよりを用いて発信していく予定である。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念の共有化のために、月1回のミーティングを活用している。時には、具体的な事例をもとにどのような実践が理念に即したケアかを、皆で話し合っている。その具体的なケアの内容については、ノートを用いて記録化を図っている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会への参加を希望しているが加入が困難な状況にある。しかしながら、「そばうち」などの機会を通じて、実質的な地域交流が図られている。また、近隣の方から野菜の差し入れが入るなど、地域住民とのふれあいもみられる。		今後は、防犯パトロール的な活動などによって、地域交流と地域貢献を図っていく予定がある。速やかなる実施を期待したい。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員皆で事前評価の作成を行い、最終的に管理者がまとめた。ミーティングの機会などを通じて、評価項目について意見交換を行い、意識統一を図っている。	○	前回の評価結果を踏まえて、どのような改善を行ったか、どのような取り組みに着手したのかがいささか明確でなかった。検討はなるだけ具体的なものとし、記録されることを期待したい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は隔月に実施されている。地域住民や行政職員の方々など、多くの関係者によって運営推進委員が構成されている。会議では、多くの意見交換を重ねながら、ホームに対する理解を関係者に求めつつ、ホームが提供するケアの質の向上のための糸口を探っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政機関との連携は、運営推進会議を通じた形態が中心となっているが、介護保険や生活保護に関する情報、連携も少なくない。今後は、それ以外での交流と連携、情報交換を活発化していく予定となっている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月単位で、利用者の日々の様子を家族に報告している。報告は、直接口頭で伝えることもあれば、必要に応じて電話や手紙(職員が作成)を用いている。利用者の金銭管理についても同様である。また、年4回、広報誌を発行し、ホームの様子を家族に報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム内に意見箱を設置し、家族等からの意見や要望を受け取る仕組みを整備している。但し、投書例はない。それ以外では、電話や直接口頭による意見を傾聴しており、その内容は専用ノートに記録されている。ノートの記録を元に、職員ら皆でケアの質の向上にむけた検討を行っている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者で職員のなじみの関係を重視しているので、なるだけ異動は行わない方針である。但し、退職等、やむをえない事情が生じた場合、利用者ひとりひとりの実状にあわせた個別対応を行い、利用者には精神的負担をかけないよう配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スタッフミーティングを利用した内部研修の実施や、外部研修への参加を推進している。外部研修参加者は、その後、報告書の提出と口頭発表での申し送りにより、学んできた知識を他の職員に伝達している。新人職員に対しては、ベテラン職員からの直接的な実地指導的研修プログラムを立てて実施している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所が企画した研修の招待を受けたり、あるいはその逆に研修招待を行ったりといった同業者交流がある。研修のみならず、カラオケクラブなどの福利厚生的な交流も積極的に実施され、職員のリフレッシュが図られている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望の有無を問わず、随時見学を受け入れている。空室があれば体験入所サービスも実施している。体験入所の際には、利用者に日割り計算で費用負担を求めている。納得してサービスを利用していただける様、十分な話し合いの機会の確保と、それに際する懇切丁寧な案内と説明を心がけている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	畑仕事、掃除、漬物作り、裁縫、犬の世話などのホームでのさまざまな生活場面を通じて、皆の支えあう関係づくりが育まれるようなかわりを意識している。そこには、職員や利用者を越えて、共に過ごしあう関係を重んじるという姿勢がある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者ひとりひとりの思いや意向は、さまざまな援助機会のみならずあらゆる日常生活場面において重要視すべきものと認識し、ケアを実施している。職員は、利用者との会話の中や、さまざまな表情や仕草からそれを汲み取り、時には家族から聞き取りを行って把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	まず、利用者ともかかわりを持つ機会が多い職員ひとりひとりが、利用者主体のケアを検討し、それを管理者に提案している。管理者が目を通した介護計画は、利用者や家族の意向を確認して完成に至っている。意向や希望等については、その都度文書に残し、計画過程を記録に残しつつ、十分な検討を行なっている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の内容に即して、日頃のケアの記録が綴られている。また、ケアのチェックシートなど、モニタリングに必要な書類はわかりやすくまとまっている。それらを元に、ミーティング時などを利用して介護計画の見直しを行っている。	○	介護計画の見直しに際しては、利用者や家族の意見を十分に反映させられるような手続きを明確に取り入れられたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の実状や希望に応じて、さまざまな福祉サービスへのアクセスを支援している。時には、市町村を越えて他事業所と連携をとったり、あるいは、橋渡しを行っている。また、ユニットを越えて共有利用できるスペースがある。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医および医療機関については、利用者の入居時に、十分な話し合いのもと確認を行っている。また、24時間対応可能な協力病院も確保し、症状に応じて医療機関を変更することも可能となっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者の健康状態については随時確認を行い、本人や家族と話し合いの場をもっている。利用者の重度化、終末期におけるケアはどのように行うか、どこまで行うか、その内容については、医師も交えて話し合っている。	○	概ね、重度化、終末期に関するケアの内容についてはまとまっている。今後は、そのケア内容の整理と明文化が期待される。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日常生活の支援に際し、プライバシー保護の必要性から、番号(口頭で、利用者の実名をさけるため)を用いた申し送りや記録を実施している。必要に応じて番号を用いた対応をする場合がある旨については、入居時に説明を行い、承諾を得ている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりの習慣や経験、希望を尊重した日常生活支援を心がけている。例えば、喫煙や飲酒などの嗜好品についても、ひとりひとりの希望や健康状態を総合的に勘案して、具体的な支援を決めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食べ物を積極的に献立に反映している。調理や配膳、片付けは、利用者と共に皆で行い、食事の準備から楽しめるような対応を心がけている。また、外食(居酒屋を含む)支援や、胃ろうの方には経口摂取ができるような支援を積極的に行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的に、利用者の希望に即した入浴できるような体制をとっている。入浴拒否をされる方には、本人が納得して入浴できるように根気よく丁寧な声かけを行い、入浴を楽しむことができるような支援を行っている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者ひとりひとりの希望に応じた対応を心掛けている。図書館にでかけて本を借りたり、読書を楽しんだり、居酒屋を楽しんだり、さまざまな楽しみごと、気晴らしを支援している。また、それ以外にもホームの中で、利用者それぞれが日常的に生活を営む上での必要な役割を担って頂いている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	花見やたけのこ堀りなど、季節を楽しめる外出支援を実施している。また、そのレパトリーの拡大にも努めている。時には、利用者個々の希望に応じてお墓まいりの外出支援を実施することもある。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は一切施錠しない対応をおこなっている。もちろん、利用者の希望によって、居室の鍵を利用者自身に管理してもらうことは可能である。但し、夜間のみ防犯上の兼ね合いで、19時から翌日の8時まで施錠対応をしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、災害対策として避難訓練を実施している。		地域との協力、連携を念頭に、災害用緊急備蓄や災害対策用具の整備、避難場所及び避難経路の明確化などの推進を期待したい。また、伴って災害対策に関する記録の整備を進められたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	県栄養士会に依頼して、献立や利用者の栄養摂取状態について助言、指導を受けている。食事制限が必要な利用者には、個々に栄養計算を行い、個別な献立を作成している。また、必要に応じて水分摂取量の把握も行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花がホーム内の要所要所に飾られ、利用者が落ち着いて過ごせる共有空間づくりが図られている。廊下の途中には、ベンチとしても使える収納ケースがあり、畳を用いた和テイストな空間もある。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、その利用者の持ち込んだ家具やベッドが自由に配置されており、本人のこだわりを尊重した居室作りを徹底手地している。		